

1. さわやかな森の香り

植物が発散する成分に、フィトンチッドという物質があります。フィトンチッドは他の植物の生長を妨げたり、害虫を殺す作用があります。植物は自分たちがくらしやすい環境を作るためにフィトンチッドを発散しています。このフィトンチッドは人間にとって、病原菌への抵抗力を強める働きをします。森の中を歩くと、とてもさわやかな気分になりますが、これは緑の木々が目や心にさわやかなだけでなく、木々がフィトンチッドを発散しているからです。

2. 森林の水平分布と垂直分布

南北に細長い日本列島は、南から北へ行くにしたがって森林の姿が変わってきます。これは森林が自分にあった気候のところにうまく住み分けている結果によるもので、森林の水平分布といいます。ところで本州の山岳地帯が亜寒帯林に、また南にある四国・九州でも温帯林が一部に見られます。このように森林の分布状況は等高線に沿っても違いがあります。標高差による森林の分布が垂直分布です。

亜寒帯林：エゾマツ・トドマツ・コメツガなど

温帯林： ブナ・トチノキ・スギ・ヒノキなど

暖帯林： アカマツ・カシ・スギ・ヒノキなど

3. 日本は森林国

日本は国土面積の約70%に当たる2500万haの森林面積を持つ、世界でも有数の森林国です。ところが国民一人当たりに換算すると、0.2ha、テニスコート8面くらいの面積になります。日本は人口が多いのでこのような数字になります。

森林率：フィンランド69%、カナダ33%、アメリカ28%、ブラジル66%、世界総数30%

4. 樹齢と林齢

〇年生という林齢の表示は、林の年齢で、種をまいて苗木を育てて、山に植え替えてから数え始めます。たとえば林齢100年という表示があったら、樹齢は苗床で育つ2年間をプラスして102年ということになります。

5. 紐打ち

吉野林業では7年生前後の木を対象に「紐打ち」という作業を行います。これは一種の枝打ちや除伐のようなもので、地上1～1.5mぐらいの枯れ枝を払ったり、生長の悪い木を刈り払う吉野林業独特の作業です。目的は無節完満のよい木を育てるためですが、まず林内の通風を良くし、これからの林内作業をやりやすくするために行います。季節は樹液の活動が止まる10月中旬～翌年3月中旬頃と、枝打ちと同じです。紐打ちの約5年後に本格的な枝打ち・除伐の作業が始まります。

6. 苗木と挿し木の違い

スギは枝を切り取って土やミズゴケなどにさしておくと根が出やすい木ですから、昔から挿し木で育ててきました。挿し木は母樹の一部なので、親と同じ性質の木が育つことになります。そこで母樹と同じ木が欲しいときは挿し木で育てます。種から育てた場合は親より悪い木になることもありますが、良い木に育つこともあります。現在では母樹と同じ木が欲しいときは挿し木で、苗木がたくさんいるときは種から苗木を育てます。

7. 採取母樹は70～80年生が良い。

スギの種は70～80年生の木から採集するのが良いとされています。スギの場合、大きく生長し一人前になったとされる目安が70～80年生ぐらいだとされているからです。70年生までの若木でも、大きく育ったものがありますが、その木から採れた種から育った木はやはり、若木のうちに生長が止まってしまいます。また100年生以上の高齢木から採種した種は、発芽率があまり良くありません。

以上